

広葉樹天然林更新施業法

択伐区の損傷率調査

大根占営林署

伐採前			伐採後		
樹種	本数	材積	樹種	本数	材積
サクラ	2	0.73	サクラ	2	0.73
タブ	21	10.59	タブ	21	10.59
イス	3	2.68			
イタヅイ	1	0.74			
広 I	9	5.64			
広 II	1072	158.40	広 II	784	46.31
計	1108	158.78	計	807	57.63

(広 I、II にのみ産質材)
その他一般材

状 況 写 真

区 分 自 主

大 根 占 营 林 署 161

(様 式 6)

採 伐 区 (10 ②) 遠 景



皆 伐 区 (10 ⑥)



採 伐 区 (10 ②) 林 内



皆 伐 区 (10 ⑥) から ⑤ ④ ③ ② ① へ 望 む



真 写 况 状

自主 区分

大根古 管林署 1102

(様式 6)

列状保存区 110② 伐区 110② 列状保存区 110②



FUJICOLOR BB

伐区 110② 列状保存区 110② 伐区 110②



FUJICOLOR BB

対象保存区 110①



FUJICOLOR BB

昭和63年度技術開発実施報告書

様式 2

課題	広葉樹天然林の更新方法について	継続・新規別	継続	担当課	造林課	開発箇所	大根占	期間	昭和61年度 平成7年度
		経常・特別別	経常						
		指示・自主別	自主						
全体計画		実施報告		昭和63年度実施計画		評価および普及計画			
		昭和62年度までの実施経過を記入のこと		昭和63年度実施結果を記入のこと					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験地設定 2. 伐採搬出状況調査 3. 保残立木の調査 4. 保残数量、伐採方法の適否調査 5. 更新種樹の生育調査 6. 有用樹の生育調査 7. 有用樹の保育方法調査 8. 平成7年度まで（継続等）についてはその時点で検討する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験地設定 <ol style="list-style-type: none"> (1) 861.7月現地設定 (2) 861.11月試験地内立木販売 (3) 同時に伐採搬出方法説明指導 2. 伐採搬出状況調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 択伐区域内で、伐倒木周囲の一部立木に対する損傷被害が見られるも、ほぼ計画とおり作業が進められ完了した。 (2) 列状伐区の伐採搬出は計画とおり実行され、特に被害等の発生は見られない。 3. 保残立木の調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 択伐区の損傷率調査 (2) 列状保残区状況 4. 伐採方法等の適否調査 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 更新種樹・有用樹の生育調査 (調査結果は別表のとおり) 2. 有用樹の保育方法調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 択伐・列状・皆伐の各区域に 刈出区(今入区)・放置区を設定した。 フロント面積 各100㎡ 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 更新種樹・有用樹の生育調査 2. 有用樹の保育方法調査 			

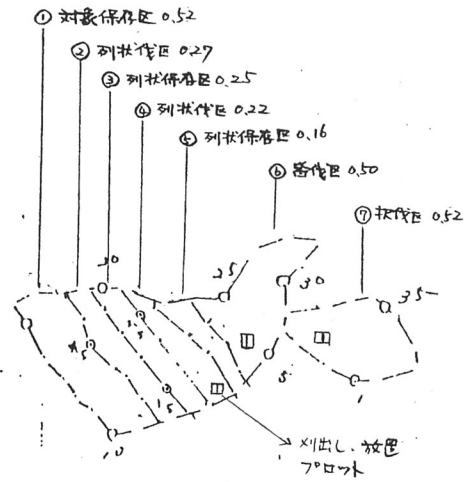
課題

広葉樹天然林の更新方法について

1. 更新種樹・有用樹の生育調査

樹種 本数、平均樹高	ヤマブキ		イヌ		サクラ		シイ類		カシ類		マツ		その他		計		
	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	
採伐区	放置区	42	95	2	95					1	100			26	64	76	89
	刈出区	21	91	5	90					2	70			38	51	66	85
列状採伐区	放置区	40	95	12	73	1	120	13	117	2	66	1	10	52	80	102	85
	刈出区	56	80	17	44			10	80	5	56			75	53	160	63
密伐区	放置区	26	100	16	80	2	120	6	108	10	62	2	25	47	78	109	84
	刈出区	13	65	43	70			4	107	28	107	5	30	61	75	150	78

2. 有用樹の保育方法調査 (刈出区、放置区プロット設定)



実測図

宇洞河原 112 区 杉川班内
 實測面積 2446a
 係残木施業指標林設定場所

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

技術開発課題報告書 (元年度実施報告)

熊本営林局

課題	継続・新規別				担 当	造 林 課	開 発 箇 所	大根占営林署	昭和61年度 ～ 平成7年度
	指示・自主別								
年 度 別 実 施 経 過						元 年 度 実 施 報 告		評 価	
<p>1. 試験地設定 (61年度)</p> <p>(1) 場所 洞河原国有林112た林小班</p> <p>(2) 面積 2.44ha</p> <p>2. 伐採搬出状況調査</p> <p>(1) 択伐区域内で、伐倒木周囲の一部立木に損傷が見られた。</p> <p>(2) 列状伐区は、特に損傷、被害等は発生していない。</p> <p>3. 伐採方法等の適否調査</p> <p>(1) 集材は、択伐区は林内車、列状区は架線集材で、集材による損傷はほとんどなかった。</p> <p>(2) 択伐区の損傷木(本数17% 材積16%)は、大径材伐倒によるもので、やむを得ない。 ものと考えられる。</p> <p>4. 択伐区の損傷調査、伐採方法の適否(62年度)</p> <p>5. 更新稚樹、有用樹の生育調査(63年度)</p> <p>6. 有用樹の保育方法調査(〃)</p> <p>択伐、列状伐、皆伐の各区に刈出区(手入区)、放置区を設置 プロット面積各100m²</p>						<p>1. 更新稚樹、有用樹の生育調査</p> <p>2. 刈出区(手入区)の下刈 (刈出区) (放置区)</p> <p>野兎の害 48本 13本</p>		<p>刈出区は、野兎の害が多く 放置区の方が成長良好である 野兎の害を防止するため、 刈出しは数年間実施しない方 が得策と思われる。</p>	
						事業費(技術開発) 千円			

課題	広葉樹天然林の更新方法について		継続 新規	担	造林課	開発 箇所	大根占
目的	広葉樹天然林の低層広葉樹の代採方法を究明し林地の裸地化を防ぎ有用広葉樹の早期成林をはかり、天然更新技術の開発をはかる。		指示 自主	当			
年度別実施経過			〆年度 実施報告	〇年度 実施計画	開発期間 〆61年度 ~ H7年度		
			<p>一、更新稚樹有用樹の生育調査 (調査結果は別紙のとおり)</p> <p>二、刈出区(手入区)の不刈 定員の実行 (6月)</p> <p>事業費 (技術開発) _____ 千円</p>	<p>一、更新稚樹有用樹の生育調査</p> <p>二、刈出区の下刈 定員の実行 (6月)</p> <p>事業費 (技術開発) _____ 千円</p>	<p>備考 (評価及び普及計画等)</p> <p>今回の調査結果では全この 放置区において刈出区より生長 が良好である。 その原因は、刈出区は野光の 害が多かったためと思われる (刈出区被害48本、放置区13本) 尚、根部から切断されている ものについては腐層を除去から 除外した。その他刈出区に する 風害、他植生との競合、 照度等の関係については 今後の調査を要する。</p> <p>現在までの結果から考 ると当地方における広葉樹 天然林跡地の稚樹(幼樹) 発生後の刈出しについては 野光の害を防止するため 数年間は実施しない方が 得策と思われる。</p>		

課題 広葉樹天然林の更新方法について

1. 更新種樹有用樹の生育調査

100 m²当り

調査区域	樹種 本数・平均樹高	ダブ		イヌ		サフラ		シイ類		カツ類		マツ		その他		計		
		本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	本数	平均樹高	
沢 代 区	放置区	63年度	12	98	2	95					6	100			26	64	76	89
	元年度	11	104	2	100					6	108			24	103	70	100	
	増減	-1	+45	±0	+05					±0	+08			-2	+09	-6	+04	
川 出 区	放置区	60年度	21	91	5	90					2	70			48	81	66	85
	元年度	19	122	5	106					2	116			46	115	62	119	
	増減	-2	+31	±0	+16					±0	+46			-2	+04	-4	+04	
列 状 区	放置区	63年度	40	95	12	70	1	120	18	117	8	66	1	10	52	80	102	88
	元年度	46	102	9	100	1	170	16	155	4	112			46	125	112	129	
	増減	-4	+07	-3	+27	±0	+50	-2	+08	-4	+46	-1	0	-6	+45	-20	+41	
皆 代 区	放置区	60年度	56	80	17	44			10	80	5	56			75	50	160	60
	元年度	44	124	16	66			8	125	5	79			56	72	129	90	
	増減	-12	+44	-1	+22			-2	+45	±0	+20			-19	+19	-34	+30	
皆 代 区	放置区	60年度	26	100	16	80	2	120	6	108	10	62	2	25	47	78	109	84
	元年度	24	103	16	105	2	180	5	120	8	87	1	30	47	110	100	117	
	増減	-2	+03	±0	+25	±0	+60	-1	+12	-2	+25	-1	+5	±0	+32	-6	+33	
川 出 区	放置区	60年度	13	65	40	70			4	107	28	107	5	60	61	75	150	78
	元年度	10	85	39	94			4	120	19	127	3	48	61	110	108	104	
	増減	±0	+20	-4	+24			±0	-17	-9	+20	-2	+18	±0	+35	-15	+26	

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。